

# 緩衝材にまつわるエトセトラ

緩衝材はその必要に応じ、様々な物品が用いられています。

輸送において荷物が目的地に到着すれば不要になりますので、安価な物が用いられる傾向にあります。

古くは長距離の輸送ではシロツメグサが使われた時期があります。シロツメグサを漢字で表わすと「白詰草」、名前にその名残が残っていますね。シロツメグサは海上輸送が標準的に使用されていた時代に梱包資材として盛んに使用された為、世界各地のその種も運ばれ、気化植物としてかつての海運網拠点を中心に繁茂しています。

20世紀に入り多く使用される身近な素材には、気泡緩衝材や発泡スチロールなどがあります。

また入手のしやすさから新聞紙もよく使われます。

気泡緩衝材(俗に言う「プチプチ」)はポリエチレンの伸縮性と空気の圧力で衝撃吸収機能を持ちますが、発泡スチロールはポリスチレンなどの合成樹脂を発泡させ弾力性を持たせています。

新聞紙は単純に紙の持つ弾力によって内容物を支えていますね。

合成樹脂を使った緩衝材は水漏れや湿気に強い反面、環境に廃棄されればいつまでも分解されずに残る為に環境負荷が大きくなります。

合成樹脂の緩衝材に代わってセルロースやコーンスターチ(トウモロコシ澱粉)など生分解性のある素材も注目されてきています。

また、シュレッダー屑などを緩衝材に再利用する企業も見受けられます。

梱包資材以外では衝撃吸収ゲルのようなゲル化素材も見られます。

ジョギング用運動靴などではこの衝撃吸収ゲルがかかと部分に内蔵され、足が地面に衝突し体重を支える際の衝撃をやわらげています。

出典： フリ-百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

